

## 2021年バシー海峡戦没者慰霊祭の 開催報告

令和3年11月21日、台湾南端の猫鼻頭岬びょうびとうに建つ潮音寺において、バシー海峡戦没者慰霊祭が斎行されました。

本慰霊祭は、戦後70周年の2015年より、日台民間ボランティア有志で組織する実行委員会が主催し、一年に一度執り行なっています。

戦時中、台湾とフィリピンの間のバシー海峡では米軍潜水艦の魚雷攻撃によって多くの輸送船が撃沈され、「輸送船の墓場」と恐れられました。

正確な戦没者数は未だ不明ですが、同海域では少なくとも10万名以上が戦没したと推計されます。

第七回目となる今年の慰霊祭は、昨年引き続き新型コロナウイルスの影響で日台間の往来が依然再開されず、ご遺族をはじめ日本からの参列が叶わない中で台湾在住の日本人と台湾人の計57名が参列しました。

当日は昨年同様、実行委員会（Egoshima Page）上にてライブ配信を実施し、日本からもオンラインで参加いただきました。

慰霊祭では後援団体でもある公益財団法人日本台湾交流協会高雄事務所の加藤英次



2021年パシイ海峽戦没者慰霊祭の集合写真

所長、台北市日本工商会の徳元克好理事長、台湾日本人会高雄支部の山口昌彦支部長より弔辞を賜りました。

また貴会の杉本正彦理事長からも弔辞を賜り、日本台湾交流協会台北事務所から参列された方に代読いただきました。

さらに1944年にパシイ海峽を航行中に撃沈された「瑞穂丸」に乗船し戦没した國岡健治様のご令孫である山下素子様にはライブ中継にてご挨拶を頂戴し、現地参列者は潮音寺内に設置した大型スクリーンを通して、会ったこともない祖父を思い続けるご遺族の率直な思いに触れました。

慰霊祭後には例年同様、パシイ海峽に面した海岸にて白菊を献花し、その後、台湾最南端の地である鵝鑾鼻岬を訪ねてパシイ海峽を望みました。

本慰霊祭の会場となっている潮音寺は、パシイ海峽で撃沈された揚陸艦「玉津丸」に乗船し、12日間の漂流を経て奇跡的に生還を果たした中嶋秀次氏（故人）が、戦友を慰霊するため私財を投げ打って奔走し、多くの台湾人の協力を得て1981年に建立されました。

潮音寺の2階に上がると、正面には青藍のパシイ海峽が広がります。

建立から40年を迎えた現在の潮音寺は、かつて建立地を中嶋氏とともに探し、常に中嶋氏の思いに寄り添って潮音寺を護り続け、2013年に中嶋氏が逝去した後もそ



パシイ海峽に向けて献花する参列者

の遺志を受け継ぐ地権者の鍾佐榮氏をはじめ、台湾の潮音寺管理委員会によって維持管理されています。

2016年9月には大型台風が直撃し、潮音寺も甚大な被害を受けました。翌2017年1月までに大規模工事が行われたものの、老朽化は避けられず、日々潮風に晒され、時々台風も通過する状況において劣化する外壁や雨漏りの修繕などはその都度、潮音寺管理委員会によって頻繁に行われています。

同会委員長の鐘佐榮氏は慰霊祭の挨拶で「台湾には私たちがおりますので、日本の皆さまどうぞ安心してください。私の後も、息子である呉凌輝が引き続き、その使命を引き継いで参ります」と今後も潮音寺を護っていく決意を語りました。

実行委員会はこの遺族の皆様が心を慰められる唯一の場として、また今日の尊い平和に感謝し、戦没者の存在を決して忘れ去らない場として、さらに日本人と台湾人がともに手を携えて平和を誓う場として、今後も肅々と慰霊祭を継続してまいりたいと考えております。同時に日本人の先人を慰霊する潮音寺が台



潮音寺の維持管理を担う台湾の人々  
(右から二番目が鐘佐榮さん)

湾人の善意によって40年来、護られ続けている事実もより多くの人々に知っていただきたいと思っております。

なお、慰霊祭当日には昨年来、常態化している中国軍機による中華民国(台湾)の防空識別圏への侵入があり、二機がパシー海峡上空に飛来しました。

先の大戦で数多の犠牲を出した悲劇を忘れず、日本と台湾が協力して自由で開かれた海洋秩序を守り、ともに恒久平和を誓うことがより一層重要になっております。

次の慰霊祭は2022年11月20日(日)に斎行予定です。来年こそは日本からのご参列も叶い、より多くの皆様と潮音寺に集うことができればと願っております。

パシー海峡戦没者慰霊祭実行委員会  
事務局長 榎田猛資

潮音寺管理委員会ホームページでは潮音寺の維持管理のための賛助金も募っています。

パシー海峡戦没者慰霊祭公式ホームページ  
<http://bashi-channel.com/>  
潮音寺公式ホームページ  
<http://choonji.org/>